

七月五日

七時起床。昨日は夜、本の拾い読みをしていて面白い事に気付いた。山本夏彦にしても佐藤健にしても、生前よりも亡くなってからの方が、書物に書かれている事がハッキリしてくるのだ。私の友人達もそれぞれに知人を亡くしている筈だが皆、そんな実感を持っているに違いない。世界は膨大な死者によって形作られている。九時世田谷村ゼミ。上田食文化と水。青臭いがコレは仕方ない。マアマアである。その他。一人欠席聞けば体調を崩しているとの事。青年は体が一番大事だから養生して欲しい。しかし、体調も運、不運があるから、自分の若い頃を思い起こしても、どう養生していたか、全く記憶がない。十一時半過池袋より東上線で上福岡、千代田さんコンバージョン現場へ。コンビニエンスストアを居室及び私設ギャラリーにするもの。小品だが、私の研究室のコンバージョンの一号になる。早稲田周辺のまち再生を含んだコンバージョンが仲々動かないので、こういう変型のものが最初の事例になった。十二時半現場。近くのソバ屋でソバ一合半食べて仕事。群馬の森田オヤジ（元日左連会長）他が待っていた。十五時迄。十五時過、森田のオヤジさんがチョツと飲みたそうだったので、二人で駅前の焼鳥屋へ。森田兼次七十七才、日本の職人の大親分もいささか年老いた。しかし、意気ケンコーたるものもあるのだが、悲哀に満ちている。往時三十七万人いた日本最大の職人の組合であった日本左官業組合連合会も今や十数万人の小

人数になった。大工の組合である全建連よりも少し多いくらいの小人数だ。森田会長以後、池本会長が継いだだが、これは職人の中心というよりも、ゼネコンの下請けを代表するような人物であった。要するに親分としては役不足。職人の職人たる由縁を考えられようもない人物であった。他も皆雑魚だった。わずかに金沢のイスルギ位だったろう。そのイスルギも今は無い。要するに職人の自立をうながせるような人物が居なくなった。これは哀しい事なのだ。職人世界は組織者（オルガナイザー）が不在だ。要するにゼネコンというのは職人世界の理念無きオルガナイザーであった。十三才の時から職人を自他共に張っていた森田兼次は、本当は職人世界の最期の大親分であったのだ。「もう駄目です・・・」と彼は言う。確かに、勝ち目はもうない。しかし、そう簡単に負ければ良いという問題ではない。職人の組合活動の可能性について考えてみたい。十六時四〇分、群馬に帰る森田さんと別れて、上福岡駅へ。只今十七時東上線志木である。十七時四十五分新宿柄谷行人のナムの会は本格的にやるのだったら、建設業の実体を支えている職人組合をオーガナイズする位でなければ駄目なんだ。中途半端な柄谷ファンとインテリをいくら集めたって、社会的にはへのつつかい棒にもならない。森田兼次が生きている間に、負ける職人の最左翼である左官職の、小さな組合を作るのに時間を割いてみようかと考えている。このアイディアは十五年位前から持っていたものだ。仕事を作らねばどうにもならぬ、のはハッキリしている。

七月六日

いくつかの現場での工務店情報によれば工事量の激減を一番ストリートに喰らっているのが左官職だそうだ。絶滅の危機に直面

しているのだな。職人学校なんて言ってるヒマはもう無い。リアルな現場をしかも多く作らなくては駄目だ。

昨夜、東北の結城登美雄と久し振りに電話で話した。結城さんは仙台で大きな広告代理店を主宰していたが、バブルの崩壊と同時に閉店。その後一人の民俗研究家となり、日本中を巡り農業の実体を見聞した。その間の事情はいくつかの結城さんの書き物で知っていた。一年前、彼は東北に田畑と農家を求めて、遂に百姓になった。今は百姓半分、他を半分の生活らしい。外から眺めるに、これは人生としては理想的なものである。内に入れば色々と過酷な事があるのだろうが、ともあれ友人達の中では一番勇気ある決断をしたのは確かである。今週末結城さんの生活を見学に行けるかな。職人達も半農半職の生活に戻る手もあるぞと考える。

森田さんの群馬左官会館だって、群馬の野菜売り場にしなから職人訓練学校を細々と続ける手もあるのではなからうか。十時現在、新木場に向かう有楽町線車中。今日はトモ・コーポレーション物流センター新築の地鎮祭である。良い建築になるかどうかはこれからの努力次第だ。ゼネコンとの闘いだな。トモ・コーポのアジアの手すき紙、クロスを建築用資材として利用する事が考えられないか、と再び思い付く。十一時トモ・コーポレーション物流センター起工式。暑い。十三時芝浦にて昼食会。その後、定例の打合わせ。只今十九時、松尾建設スタッフと別れ、帰途についている。良い建築になるか、どうかはゼネコンとの附合いで決まるものではないのは、勿論知り尽くしているが、附合いは附合いである。

ネパールその他の紙製品を日本に流通させるプロジェクトを左官職達と出来ないか、というような闇雲な考えが湧いている。何しろ、左官職達は日本国中に千五〇〇ヶ所以上の事業所を構えて

いるのだから、これは強烈なシステムになり得るんだよな。私に赤裸々なビジネス感覚があれば、一気に事業を起せるのだけれど、残念ながら、私は金が本来的に、それ程欲しくはないんだナア。事業に成功する人間の本質は金が欲しい奴なんだよね。二〇時半世田谷村に帰る。独人で色々と考えていると、次第に妄想じみてくるのが自分でもわかる。夜、結城登美雄に連絡して、今週末の訪問を伝える。友岡父子が猪苗代前進基地の地鎮祭に出掛ける予定を組んでいるので、その足で訪問する事にしよう。ネパールの和紙の件は清忠とMOを動かしてみる。紙で食器やテーブル・ウエアがつけられると良いのだが。